

№	提 案 名	提 案 団 体 名		
		代表者氏名	所 属	
7	高齢化社会に対応したまちづくり ～高齢者を中心市街地に呼び込もう～	宇都宮大学 地域計画学研究室		
		竹田 理恵	宇都宮大学大学院 工学研究科	
			指導教官 氏 名	藤本 信義

1 提案の趣旨

1.1 背景

1.1.1 高齢化社会

日本において少子高齢化社会の進行が大きな問題となっている。宇都宮市においても高齢化社会は避けられない問題である。

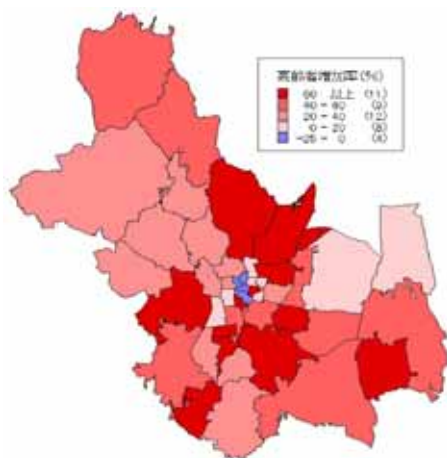


図 1-1 高齢者増加率

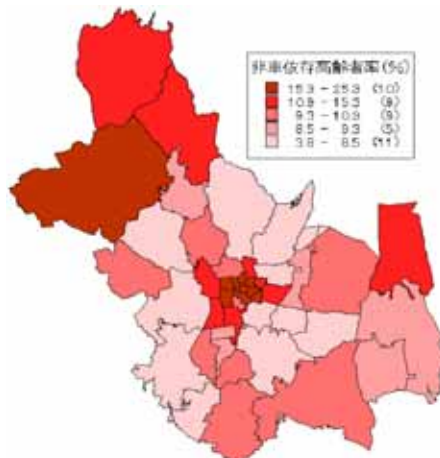


図 1-2 非車依存高齢者分布

図 1-1 を見ると今後高齢者は中心市街地を取り囲むような形で増加して行くことが分かる。図 1-2 からは中心部と郊外に非車依存高齢者が多いことが分かる。これは現況の分布であり、高齢者増加率と合わせて考えると、今後中心部周辺地区の非車依存高齢者が増加すると予測できる。したがって今後の中心市街地のまちづくりを考える際、高齢者が住みやすい環境を整備していく必要がある。

1.1.2 中心市街地の衰退

一方で中心市街地の衰退が近年の大きな問題となっている。モータリゼーションの進展による車中心の都市開発が郊外型大型商業店舗の乱立に拍車を掛け、中心市街地とのバランスが取れなくなってしまっている。大通りはシャッターを閉めたままの店舗が並び、オリオン通りは人通りはあるものの、廉価品・低価格の店が目立ち、高級感や気品に欠けている。また自転車の違法駐輪が多く、オリオン通りだけでなく中心市街地全体の景観を損なっている。

1.2 提案の概要

ここでは「高齢化社会に対応したまちづくり」と題し、高齢者を中心市街地に呼び込み、市街地を活性化させることを目標とする。中心市街地が高齢者の方にとって住みよい街、魅力ある街となるような提案を行う。具体的には、歩行を中心とし、公共交通を利用しやすい交通体系の提案や高齢者向け住宅の提案を行う。

2 提案の目標

私たちグループでは、余暇時間の多い高齢者を中心市街地に呼び込み、市街地を活性化させることを目標とする。言い換えると、中心市街地を高齢者にとって住みやすいまちにすることが目標である。

- ① 新交通システム（LRT）の導入に合わせたトランジットモールおよび歩行者エリアの整備により、市街地を回遊する際の安全性・快適性を高める。
- ② 医療・介護サービスを備えた福祉住宅（マンション）を整備し、便利で安心できる居住環境を提供する。
- ③ 学習センターやコミュニティセンターを隣接することで、趣味や交流の場を提供し高齢者の方々に生きがいのある生活を送って頂く。
- ④ オリオン通り、日野町通りに高年齢層をターゲットとした高級感のある店舗を導入し、商店街に落ち着きと気品を与える。

これらを実施することにより、高齢者が生きがいのある自立した生活を送れるまちづくりを目指す。